

未来をひらく

# 竜爪山 九条の会

りゅうそうざん  
きゅうじょうのかい

会報 2011年10月発行 通巻22号

発行 / 竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方

TEL・Fax 054-264-4918

E-mail ryusouzan9@plala.or.jp

URL <http://www3.plala.or.jp/ryusouzan9/>

学

習

会

- 第5回 -

DVD(80分)を見た後、意見交換をします。

講演 「原爆・原発と憲法9条」

講師 小出裕章さん (京都大学 原子炉実験所 助教)

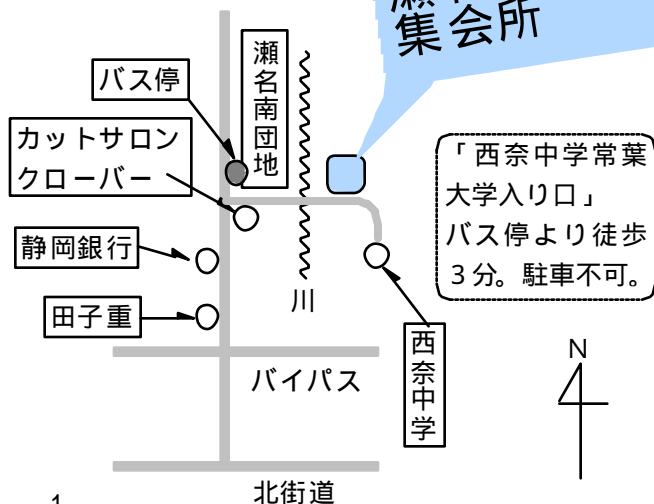
DVD制作 堅田九条の会 / アムネスティ日本・大津坂本グループ

11月3日(木)

9:30 ~ 11:30

瀬名南団地  
集会所

瀬名南団地  
集会所



問い合わせ

261-9645(三輪) / 261-8362(寺井)

第4回

平和と暮らしを考える

# 学習会 原子力発電その3

7月28日午前9時30分から、瀬名南団地集会所で第4回学習会が開かれました。参加者は21名でした。

前半は関研一さんの「東日本大震災と憲法9条」、後半は片野修治さんの「放射能と食品の安全」と題する予習発表をうかがいました。お二人の綿密な予習内容に感嘆すると同時に、学び続ける必要性を痛感する学習会でした。片野さんが作られた資料「放射能と食品の安全」を、ご希望の方におわけします。(寺井まで)



瀬名南団地集会所での学習会（休憩時間のようす）

## 参加者の感想

関先生、非常に解りやすいお話しで楽しく聞かせて頂きました。個人的には興味ある内容でした。片野先生、注意する食品、特に米についての注意は参考になりました。

有機野菜が汚染されているという事はショックでした。幼い子には今まで以上に注意が必要と思います。

片野様の話の内容がわかりやすく、はっきりして、わかりやすかったです。政府は隠さず（無理だろうけど）データを出してほしいです。

このまゝで良いのか。不安。

今から5・60年程前アメリカの水爆実験で放射能が降ってくるから雨にぬれないようにと中学校の先生から言われました。ストロンチウム90、セシウム137、この二つの言葉は今も忘れません。今の日本はその当時の比ではないほど放射能に汚染されています。むずかしい単語のベクレルとか、シーベルトとか、わけのわからない言葉だけがテレビをにぎわすだけで、肝心の人間の体に対する注意点など、まるで伝わってきません。

日頃、これはやってはダメとか、必ずこれをしなさいとか、大切なやるべき事が何も指示されていない。

なぜ誰も言わないのか。誰か言う人はいないのか。5・60年前の事を知っている人がいるはずではないか。

人体被曝量をレントゲンとよく比較していて大丈夫かなと思ってしまいが、レントゲンは毎日浴びているわけではないので、その理由はただちに信じられないと思う。

片野先生の話はよくわかったが、食べるものに不安がいっぱい。

関さん。目録にあった内容を聞きたかった。次の機会にぜひ話して下さい！

片野さん。興味ある話でした。静岡のデータがほしい。

少々むづかしい面もありましたが、大変深く研究、知識をお持ちの先生方に深く感心させて頂きました。

それなりに勉強になりました。私、勉強したく思いました。

原発の専門的なお話は、又、ゆっくり聞かせて下さい。

原子炉を止めて、廃炉を安全に進めるために、自分たちは何をしたら良いのか？

老朽炉と廃炉の問題。他の所、世界の各地の問題があると思いますが、今朝の新聞では浜岡1号機は2017年におわりになると書かれておりました。原発の終いが簡単に出来ると思えません。

肉・魚など、又、ヤサイについて。その部所についての良い所がある事を知ればよいと思います。

# 池袋から堪忍袋まで

## 外国から見た憲法9条

詩人 アーサー・ビナード

その3  
最終回

「池袋から堪忍袋まで」は、2010年11月23日、沼津労政会館での『ぬまづ憲法9条の会』5周年記念講演です。この講演を収録し、「東京保険医新聞」2011年1月5・15日に掲載されたものを「東京保険医協会」さんの了解をいただき、転載させて頂きました。



(講師)

アーサー・ビナードさん

### 生きていた日本の憲法

では、日本の憲法はどうか。日本の憲法は生きていたんです。

僕が日本に来たのは1990年6月。たまたま「池袋」というところに住んでました。やっとタイトルが出ましたね(笑い)。池袋に住み着いて、日本語学校に通い出したとき、湾岸戦争が始まりました。それで90年の秋から、まずイラクがクウェートに侵攻する。ブッシュ政権が「国際社会に対する脅威だ、多国籍軍の派遣だ」と言った。それまでフセイン政権とレーガン政権は仲良しこよしで、アメリカはイランに何でも与えていて、イラクにイランをけしかけてたのもアメリカだから、急に敵になるっておかしい。僕は、マッチポンプの戦争をやっているなと思った。

アメリカは経済が行き詰まり、石油利権も絡んでいて、それでマッチポンプの戦争をやって経済をもう一回再起動させなければいけないという状況になってしまった。その時に日本がど

ういうふうに巻き込まれるか、僕は何も知りませんでした。日本に平和憲法があることも知らなかった。そうしたら、新聞に憲法の話が出ていた。多国籍軍で日本が自衛隊を出すのか、ということが国会で問題になるんです。憲法が社説で取り上げられ、政治家は国会で憲法の問題を議論していた。そのこと自体がもう腰を抜かすほどの感動だったんです。

だって、僕の国の憲法はカッサカサのミイラとして寝かしてあるだけで、何もしない。それなのに、日本の憲法はどうやら生きている。しかも歯止めになって、海外に自衛隊を出すことができなかった。小沢一郎さんは一生懸命前文を曲げて、無理な解釈をしようとしたけど、日本語ビギナーの僕にだって、あれは無理だって分かった（笑）。それが駄目で、結局お金をいっぱいふんだくられたんだけど、自衛隊がマッチポンプの戦争に関わることはなかった。

それでびっくりしたんです。なんで僕の国の憲法はミイラにされて、憲法違反が渦巻く国になり下がったのか。日本国憲法を読んで初めて自分の国の憲法がどうなっているかということが分かりました。

日本国憲法には勝算があると思います。なぜかと言うと、日本国憲法が今、世界の現実に一番合っている憲法だから。アメリカの建国の父たちが作った憲法よりも、いい出来なんです。戦争ができないようになっている。いま世界では戦争はできない、それが現実なんです。

最近、尖閣諸島問題が持ち上がってるけど、中国と日本が戦争をやるのか。できっこないよ。中国と日本が戦争をやったら、どちらも経済が完全にぶっつぶれるでしょう。こんな狭い列島に原発がいくつあると思いますか。別に核兵器でなくても、一つでも爆弾が当たったらアウトです。だから、そこを狙って通常兵器でも攻撃されれば、その広い地域に誰も住めなくなる。

うまく戦争を使って商売をしている人たちも、それぐらいのことは分かってるんです。



だから戦争をやるつもりはないんです。アフガンみたいな、原発もない、大量破壊兵器も持っていないようなところでは戦争のふりをしてる。

日本と中国とアメリカは戦争をやれない、それが現実です。今まで人類の歴史の中で、米国と中国ほど依存し合った国はないんです。レアアース一つで大騒ぎでしょう。戦争をやったら、全部止まっちゃう。その現実をちゃんと見据えているのが日本国憲法なんです。

## 日本国憲法は世界の堪忍袋

さて、タイトルの「堪忍袋」ですが、池袋に住み着いて、落語をいっぱい聞きに行って、寄席で「堪忍袋」（あらすじは8・9ページに掲載）という噺（はなし）を聞きました。

人間だからけんかをするのは当たり前。腹を立てるなどというのは無理。だけど、腹が立ったとき、けんかしたときにはどうするか。それを考えれば、殴り合いなどしなくても、ちゃんと生きていける。そのことを堪忍袋の話が示しているんですね。

日本国憲法に出会い、そして堪忍袋という噺を寄席で聞いたときに僕は思いました。日本国憲法が世界の堪忍袋になるんじゃないかと。殴り合うんじゃなくて、殺し合うんじゃなくて、まず言葉に出す。話し合う。戦争はやらないということを大前提にすると、話し合うことが本当に可能になるんです。ピストルを出していたら、本当の話し合いは不可能です。アメリカはピストルだらけなので、本当の言葉のやり取りはできない。日本国憲法は世界にとっての堪忍袋になり得ます。日本政府が日本国憲法をうまく使って、てこにして、世界にそれをアピールしていけば、方々から「ちょっとその憲法貸して」って借りに来ますよ。あの長屋でずっと貧乏していた夫婦と同じように、今度は潤う生活に変わる可能性がある。

堪忍袋としての日本国憲法をこれから追求していきたいと思います。これでやっと「池袋」から「堪忍袋」に着きました。ありがとうございました。（拍手）

# 落語

# 堪

# 忍

# 袋

熊五郎夫婦は、今朝からずっと夫婦喧嘩を展開中。

出入り先の旦那が用事で来合わせ、隣にようすを聞くと、今朝からもう四度目という。

「お前さんがたな、喧嘩をしてお金もたまらんぞ。よく言うじゃないか、『笑う門には福来たる』って。例えばな」

昔、中国に何をいわれても怒らない男がいた。変に思った仲間が、彼を料理屋に呼び出して物凄い罵倒を試みるが、男はなかなか怒らない。そのうち、男は「ちょっと失礼」と言って帰ってしまった。

「さては、家で下男かなんかに八つ当たりをしているな？」

仲間が男の家に押しかけると、男はニコニコして出迎えてくれた。

「この人は、何かむしゃくしゃした事があると、家の大瓶にみんなぶちまけていたんだ。それから、あれは偉い人間だと評判になり、出世をしたそうだ」

喧嘩ばかりをしてお金も逃げる。瓶は大げさだから、例えばおかみさんが袋を一つ縫って、それを堪忍袋とし、ひもが堪忍袋の緒とするんだ。お互いに不満を袋にどなり込んで、ひもをしっかりとめておき、夫婦円満を図れ...と言う話。

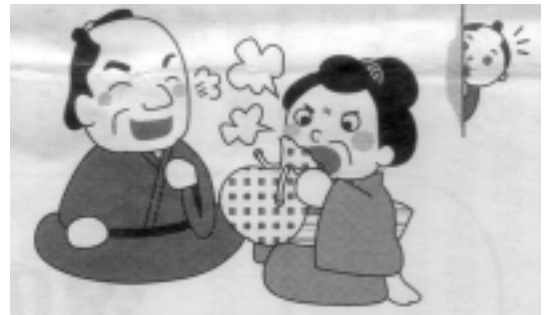
感心した熊さんは、おかみさんに袋を作らせ早速...

「亭主を亭主と思わないスベタアマツ」

続いておかみさんが、「この助平野郎ウーツ」...「この大福アマツ」...「しみったれ野郎ツ」...

物凄い喧嘩に聞こえる。見かねた隣人が仲裁しにくるが、熊さんがケロッとしているのでびっくり。

「へー、そんなすごい袋があるの。俺にも貸して！」



袋に向かって「やい、このアマツ、亭主を何だと思ってやがるんだッ」

これが大評判となり、熊さんの家は門前市をなす大混雑。三日も経たない内に、袋は喧噪でいっぱいになり...

「どうする？」

「どうするって...。明日になったら、海にでも捨ててくるしかないだろ？」

これ以上吹き込んだら大爆発を起こしかねない。仕方がないので、戸締まりをして寝たとたん...

「開けろー！！コンチクショウ！開けろ！！あける！！アケロ！！」

同じ長屋に住む、酒乱の六だ。仕方なく戸を開けると...

「仕事の後輩が若いのに生意気で、オレの仕事にケチをつけやがるから、ポカポカ殴ったらみんなオレばかりを止めるので、こっちは殴られ放題だったんだ。がまんがならねえから、どうでも堪忍袋にぶちまけさせろ！」

「駄目だって、袋がいっぱいなんだよ」

「やかましい、貸せ！！」

袋の紐をぐっと引っ張ったから、中から喧嘩がいつぺんに飛び出してきた。『ワンワンキャンキャン！！ ドッカーン！！ 馬鹿野郎、この野郎！！ ワーワーキヤーキヤー』と大騒ぎ...  
...お後がよろしいようで。（「ウィキペディア」より）

編  
集  
後  
記

11月3日の学習会で見るとDVDは滋賀県大津市の「堅田(かたた) 九条の会」さんのご好意で送っていただいたものです。講師の小出裕章さんは、40年にわたり、原発をやめさせるための研究を続けてこられた京都大学の先生です。最近の著作には、『子どもたちに伝えたい 原発が許されない理由』、『知りたくないけれど、知っておかねばならない原発の真実』、『原発のウソ』などがあります。

話は変わって、「浜岡原発廃止」を求める訴訟をござんじでしょうか。現在、浜岡原発には3つの訴訟が起こされています。その中の一つ、7月1日に静岡地裁に提訴された訴訟の、公募による市民原告になりました。10月13日、第1回の口頭弁論(審理)が行われ、私も参加してまいりました。学習会の中で、簡単な報告をさせていただく予定です。

祝日ですが、学習会への参加をお待ちしています。  
(寺井)